

みんなで頑張った時間が宝物 この自信を胸に これからも歩み続けます

最優秀賞受賞者

とおの 遠野 仁菜さん
たつかわ 立川 未菜さん
すずき 鈴木 真帆さん

※写真左から



安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼らを突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

リジョーラム Vol.17

介護技術 コンテスト 受賞者

おつかひのこま6
しほとろ大塚地じや



遠野さんの好きな食べ物
「ラーメン全般が好きですが、特に豚骨ラーメンが好きです。お気に入りには可部にある来亭亭

立川さんの好きな食べ物
立川さんいわく「お腹も心も満たされる」というカツ丼。カツ丼のあるお店では100%オーダーします

鈴木さんの好きな食べ物
高校1年生の時、大阪で初めて食べた串カツに感動。それ以来広島市内まで食べに出掛けています

コンテストを通して得た経験が
これからの学生・社会人生活の財産に

この春、吉田高校を卒業した鈴木さん、立川さん、遠野さん。1月20日に開催された『広島県高校生介護技術コンテスト』で最優秀賞に輝いたメンバーです。このコンテストは福祉系の学科やコースがある高校から1校2チームまで出場でき、高齢者の介護と接し方を競い合うというもの。競技は入浴後の女性がリビングまで移動するのを助ける想定で、舞台上の小道具や、介護対象者の様子に細心の注意を払いながら、現場さながらの介護を行います。「最も大切にしたのは、残存機能を活かした介護。その人の持つ力を最大限に発揮できるようにサポートしました」と立川さん。コンテストまでの間、放課後や冬休みを使って何度も構成を練り直し、練習に励みました。「このコンテストをきっかけに、これまで以上に相手の気持ちを考えて行動するようになりました」と鈴木さん。「仲間の考えが目を見てわかるほど、コミュニケーション力が高まりました」と遠野さんも続けます。一緒に考えている時間はとても楽しかったと話す3人。このチームワークこそが、最優秀賞の大きなポイントだったのかもしれない。春から鈴木さんは三次市の看護学校に進学。遠野さんは地元の特設養護老人ホームに、立川さんは広島市内の金融機関に就職しました。「今回の受賞が大きな自信になりました」と3人。その自信を胸に社会人・学生としての新たな一歩を踏み出します。

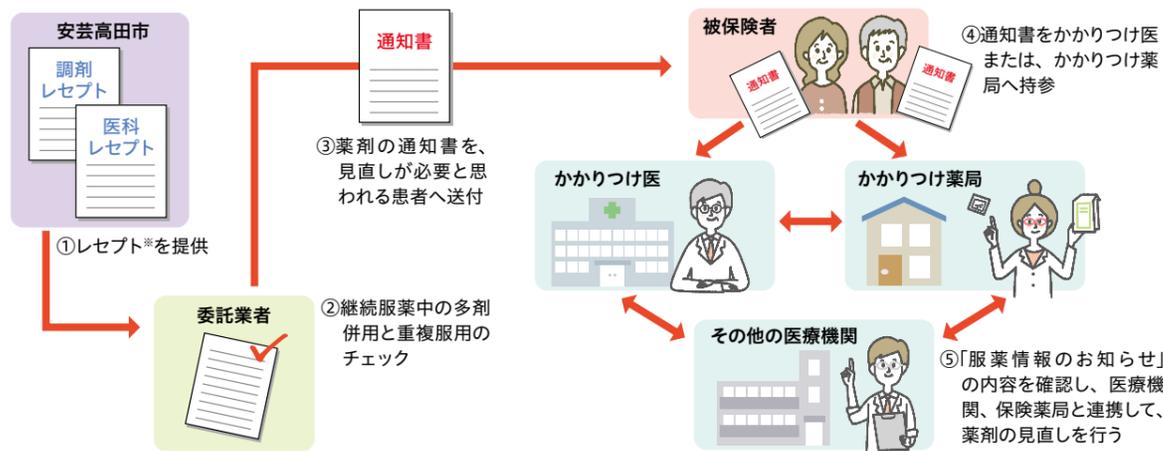
だ
よ
り
保

国民健康保険加入者への服薬情報を通知します

平成30年3月末より、病気の重篤化防止や、医療費削減を目的として、国民健康保険被保険者の方へ服薬情報に関する通知を送付します。通知を受け取られた方は、その通知をかかりつけ医やかかりつけ薬局で提示し、重複している薬や飲み合わせの悪い薬の確認を行ってください。

【対象者】以下の全てに該当される方

- ・安芸高田市国民健康保険の被保険者で60歳以上75歳未満の方
- ・複数医療機関(2か所以上)の受診歴のある方
- ・6種類以上の薬を服薬されている方



※レセプト…月ごとの診療報酬明細書

問保険医療課 医療保険年金係 ☎お太助フォン42-5619

毎年4月2日は 世界自閉症啓発デー



平成19年12月の国連総会において、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。日本においても、自閉症をはじめとする発達障害について広く啓発するため、毎年4月2日から8日を「発達障害啓発週間」として、シンポジウムの開催やランドマークのブルーライトアップ等の活動が行われています。

市では4月1日(日)～15日(日)までの期間、クリスタルアージュ1F中央図書館において特設コーナーを設置し、関係図書等の紹介を行います。※4月2日(月)は休館日になります

発達障害

発達障害は養育環境ではなく脳の機能によるもので、どんな能力にかたよりがあるか、どのくらいの程度なのかは人によって様々です。注意力散漫や多動、衝動性がみられる「注意欠陥多動性障害」や、他の知的発達に比べ読む、書く、計算するなどが苦手な「学習障害」も発達障害です。

自閉症

発達障害の一つである自閉症は、脳の発達の違いから「他の人の気持ちや感情を理解すること」「言葉を適切に使うこと」「新しいこと」が苦手であり、人によっては変化に対応できない時は混乱し、パニックを起こしてしまうこともあります。一方で、感覚が敏感であったり記憶力が突出しているなど優れた能力を発揮されている方もいます。

障害があるために困難なことを「なぜできないのか」と見られるのはつらいことです。このような自閉症をはじめとする発達障害について理解していただくことは、障害のある人だけでなく、だれもが暮らしやすい優しい社会の実現につながります。この機会に発達障害への理解を深めましょう。

問社会福祉課 障害者福祉係 ☎お太助フォン42-5615